

11月の惑星は火星が日の入り後数時間南西の空に見えているのと木星が真夜中に東の地平線から昇って来る等、惑星観望をする条件としてはあまり良いとは言えません、各惑星がほど良い時間で観察出来るには12月半ば以降になってくると思います。

11月で見て面白そうな天文現象としては11月23時午前1時31分と11月30日午前4時20分の2度起こる木星の衛星食があります。

木星には67個の衛星が有ります（その内50個程に名前が付いています）

その中で突出した大きさを持つ衛星が4つ（イオ、エウロパ、ガニメデ、カリスト）この衛星はガリレオ・ガリレイの持つ粗末な望遠鏡でも発見出来るほどの大きさを持っています（イオとエウロパは地球の月と同程度の大きさガニメデとカリストは月を遥かに凌ぐ大きさを持っています。）実際4つの衛星を確認するだけなら双眼鏡で十分。

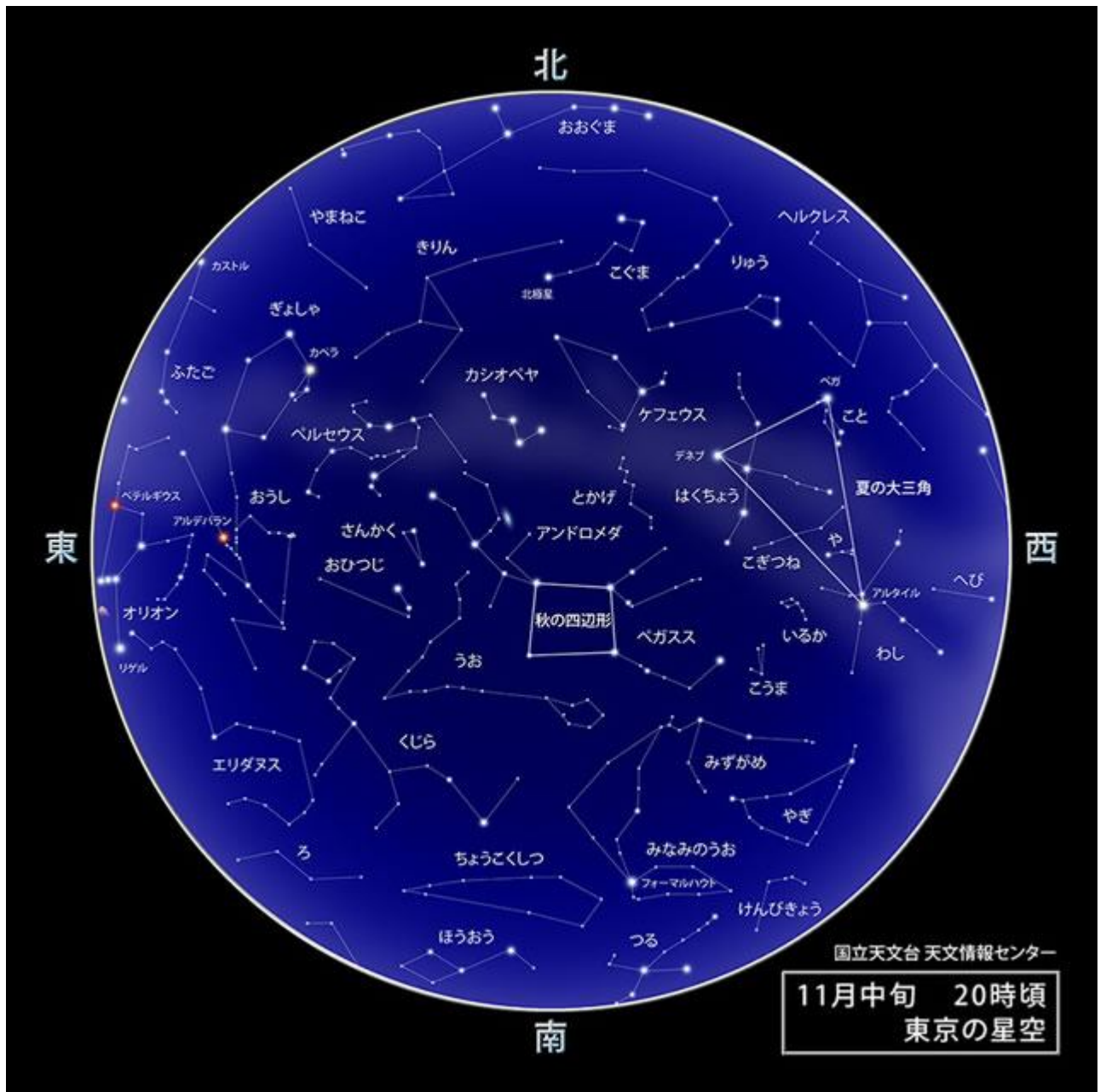
今回は2回ともガニメデがイオを隠すので機会があれば是非天体望遠鏡で覗いて見てください。





星空を見てみると秋空は明るい星が少なく物悲しい夜空になっていますね、日が暮れると寒さも一段と沁みてくるので防寒の用意はちゃんとして観望してください。

17日22時～25時にかけておうし座としし座の流星群をウェザーニューズのスマホ・PCサイトで中継するそうなので家の中でも臨場感を味わえそうです、是非体験してみてください。(そのサイトでは天気予報も無料で詮索出来るので便利に使わせてもらっています。)(<http://weathernews.jp/solive24/>)



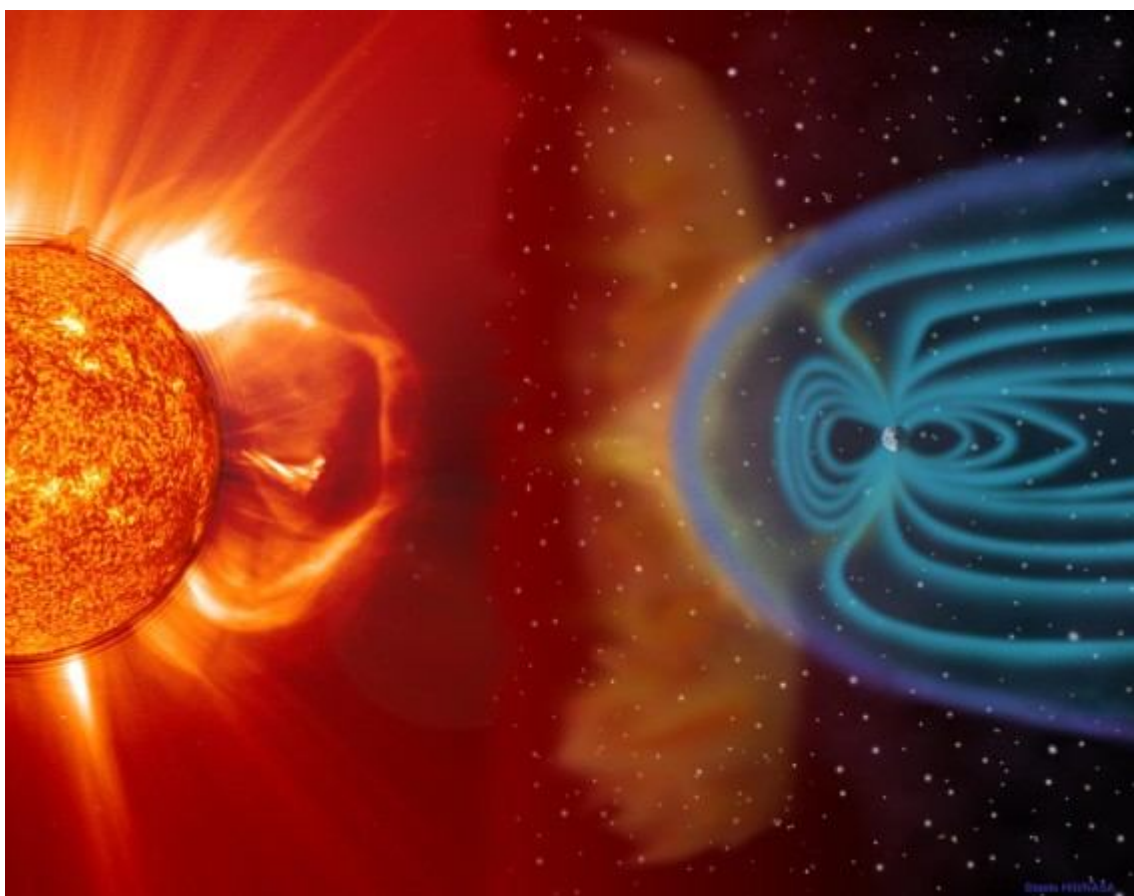
今までは遠い星の話をしてきましたが、今回は一番近い恒星（太陽）の怖い話です。
 御存知の通り直径は地球の109倍、重さは約33万倍の恒星。
 通常11年周期で活動が変動して極大期極小期を繰り返していますが、最近その太陽の様子
 が少しおかしい様です、詳しい事は分かりませんが太陽の黒点が異常に大きくなり太陽
 観測専用のサングラスを使って観ると肉眼でも黒点の存在がはっきり確認出来たとの事
 です（地球の大きさから木星の大きさ位になったみたいです）。
 怖いのは黒点ではなくそれによって出て来る太陽フレアです、発生した規模にもよります
 がかなり大きい物だと発生した時にたまたま地球の方向を向いていたとしたら地球上に有

る電子機器が全て壊れることが予想されるそうです、(電力網が壊滅状態になり大停電を起こします。)

それだけでなく交通、通信、全てが影響を受けます。

実際1989年3月カナダのケベック州において600万世帯が太陽フレアによる磁気嵐の影響で停電に陥り完全復旧までに数ヶ月を要した事が有ったそうです、それ以上の規模のフレアが何時起こっても不思議ではありません。

(願わくはフレアが地球の方向に向かないことを！)



また、宇宙航空研究開発機構の太陽観測衛星「ひので」が、太陽の南極・北極の磁場に異変が起きていることを観測したというニュースが有りましたがこれの観測結果を解析すると過去のミニ氷河期と同じ様な数字が出ているそうです、今温暖化防止の為 CO2 抑制の動きが世界的に有りますが太陽の活動次第では今のままでも地球全体の寒冷化(氷河期)が来ってしまうかも知れませんね。

上記に関してはあまり詳しくは無いので断定は出来ませんが起きた事と出てきた観測データは間違い無いそうです。